

# 化学物質の安全管理に関する シンポジウム

2016年2月26日

国立研究開発法人 産業技術総合研究所  
安全科学研究部門

蒲生昌志

※ 過去の振り返りと近年の話題について、H26度シンポジウムでの  
加藤順子先生によるイントロのスライドを多く拝借しております。

# 平成19～21年度

## 化学物質連携施策群の成果発表の場 「化学物質の安全管理に関するシンポジウム」

平成19年度：総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用に対する各省の取り組み

平成20年度：化学物質管理におけるリスクーベネフィット

平成21年度：化学物質管理による『安全』と『安心』

# 化学物質連携施策群

## 科学技術連携施策群

各府省が実施する関連施策の連携強化や研究内容の重複排除などの調整活動を行うことで、予算を効率的に活用し、関連施策の成果の最大化を図る。

## 化学物質連携施策群

「総合リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発」（平成19-21年度）

- ・ ICCM(International Conference on Chemical Management)のWSSD目標「化学物質の製造と使用による健康や環境への悪影響を2020年までに最小化する」実現のためのSAICM (Strategic Approach to International Chemicals Management) 採択（平成18年2月）
  - ・ 欧州におけるREACH規則の施行（平成19年6月）
- ◆世界で使える適正管理システムの研究開発が必要

# 化学物質連携施策群の研究目標

- 研究目標1：「化学物質の有害性データと暴露データを十分に取得し、化学物質のライフサイクル全体でのリスク評価を実現する」
- 研究目標2：「資源を有効活用しつつ、化学物質のトータルリスクを最小にする社会システムの形成に役立つ適正管理手法の研究開発を推進する」
- 研究目標3：「環境問題の発生を未然に防ぐ国際基準の作成や規制の枠組み作りに積極的に国際貢献する研究開発を推進する」

# 平成22年度～26年度

実行委員会形式でシンポジウムを継承

「[化学物質の安全管理に関するシンポジウム実行委員会](#)」

実行委員長：安井至先生（NITE名誉顧問）

世話役：内閣府（科学技術・イノベーション）

委員：約15名

- 各府省担当者

（内閣府、厚労省、経産省、環境省、国交省）

- 専門家

（国衛研、[NITE](#)、[国環研](#)、[産総研](#)、土木研、大学、企業）

[幹事持ち回り](#)

平成22年度：製品評価技術基盤機構（NITE）

- 化学物質のリスク評価と今後の課題

平成23年度：国立環境研究所

- 新しい化学物質等のリスク問題へのアプローチ

平成24年度：産業技術総合研究所

- 政策におけるリスク評価の利用とさらなる活用に向けた課題

平成25年度：製品評価技術基盤機構（NITE）

- 化学物質のリスク評価の最新動向と今後の課題

平成26年度：国立環境研究所

- 化学物質規制における新たな課題と背景

# 平成27年度 以降

安井先生が、実行委員長をご退任された。

- But
- ・ 府省の垣根を越えたシンポジウムの機会は貴重
  - ・ 来場者アンケートでも、継続を望む声が多い



開催を継続（まずは幹事機関もう一回り）

実行委員会形式の体制を維持（府省担当者＋専門家）

実行委員長：幹事機関の代表者が務める

NITE、国環研、産総研の持ち回り（来年度は、NITE）

世話役：引き続き、内閣府（科学技術・イノベーション）

# 近年の化学物質管理の広がり

- 管理スコープの広がり  
例：ライフサイクルや資源管理を通じたリスク管理
- 新たなチャレンジ  
例：複合暴露のリスク評価
- 新たなエンドポイント  
例：内分泌かく乱、次世代影響、神経発達毒性
- 新たなタイプの化学物質  
例：ナノマテリアル
- 新たな有害性評価手法  
例：in vitro試験、QSAR、トキシコゲノミクス、AOP、IATA



# 本日のシンポジウム

## 「複数化学物質のリスク評価」

### 個人的な問題意識

- 実環境では多くの化学物質に暴露している。
- 評価の方法や事例は不十分（少なくとも個別的、断片的）  
→ リスクの顕在化？風評被害？への対応が必要
- この問題を議論するには、リスク評価の方法のそもそもに目を向けざるを得ない。  
→ 個別物質のリスク評価手法とのシナジー効果を期待

# 本日のシンポジウム

## 「複数化学物質のリスク評価」

絞ったテーマだが、常連5機関の話題を揃えることができた。  
さらに、CERI（一般財団法人 化学物質評価研究機構）  
及び、農業環境技術研究所にも話題提供をお願いした。

CERI：複合化学物質の問題に関する国際動向

NITE：化審法スクリーニング評価におけるUVCBsの扱い

国衛研：複合影響の考え方 -マウンテン・オブ・ハピネスから  
「ホルミシス」まで-

産総研：化学物質複合影響の管理方法-非加算効果をどう扱うか-

国環研：化学物質の相互作用と複合影響モデル

土木研：メダカ遺伝子発現による下水処理水等の生態影響評価

農環研：農薬の水生生物に対する複合影響と累積リスク評価